

# ファイルサーバへのデータ転送レスポンス計測

ファイルサーバの新規立ち上げ時やネットワーク回線の切り替え時に、どのくらいのパフォーマンスが見込めるのかを確認したいというケースはありませんでしょうか。

そんな時に、クライアントからのデータ転送結果を測定することで、容易にパフォーマンスの計測ができます。弊社で過去に実施した試験をご紹介します。

## テスト概要

1. ファイルサーバとの接続回線変更に伴って、ファイルサーバに対し負荷実験および検証作業を実施
2. 10 台の端末から、各 10 タスク、合計 100 タスクを同時に実行させ、アップロード、ダウンロードに関わるレスポンスデータを集計
3. 集計データから問題提起および報告書作成を実施

今回の作業では、作業自体は勿論のこと、作業に使用するテストデータやバッチファイルの作成、さらに集計データの分析(要因特定、問題提起)までを一貫して弊社で実施いたしました。

## 主な作業内容

1. テストデータの作成(8 パターン×100 タスク分)  
※8 パターンの内訳は、異なるデータサイズが 4 種類(100KB、500KB、1MB、10MB)、作業項目が 2 種類(アップロード、ダウンロード)で計 8 パターン。
2. 作業用バッチファイルの作成(8 パターン×100 タスク分)
3. 手順書およびチェックシートの作成
4. 標準レスポンスタイムの計測作業
5. 100 タスク同時実行による負荷検証作業の実施(8 回)
6. データ集計
7. 計測結果に関する報告書の作成および提出

## 特記事項

今回の作業では、「100 タスクを同時実行させ、ファイルサーバに負荷をかける」という前提条件がありました。単純なミスがテスト全体の失敗につながる可能性が大きいと、本番では指定された時間内での作業ということもあり、テスト段階でオペレーションに対して入念にチェックを行い、オペレーションを少なくするための手順を構築いたしました。

その結果、正確なレスポンスデータを収集することができ、お客様の想定とは異なる集計データおよび報告書を提出できたため、大変ご評価いただきました。